

(熊本県立湧心館高等) 学校全日制 令和 7 年度 (2025 年度) 学校評価表

1 学校教育目標
<p>基本的人権の尊重に基づき、生徒一人一人に対して深い愛情と理解をもって、生徒一人一人の教育的ニーズに応じた「最適な指導・支援や合理的配慮」を行い、徳（豊かな人間性）・体（健康と体力）・知（確かな学力）の調和の取れた生きる力を備えた総合的人間力の育成に努める。</p> <p>また、郷土に思いを馳せ、生涯にわたって郷土に誇りを持てる人材に育てる。</p>

2 本年度の重点目標
<p>1 確かな学力を育成し、自己実現を図る態度を育む</p> <p>2 道徳性と豊かな情操を育む</p> <p>3 心身の健康を自己管理する態度を養う</p>

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	三課程（全定通）運営と学校経営の整合性を図る 適応指導の充実	本校のスクールミッションが三課程で共有化されているか。課程間の連絡、調整が継続的に図られているか。魅力的で特色ある学校づくりのための改善が進められているか。	教務部・進路部・生徒指導部・保健部等との情報共有化連携を強化する。 三課程での連携協力体制の強化を図る。	・三課程教頭間で定期的に情報交換を行う。 ・三課程の主任主事等による教育活動の調整を図る。	A	定期的に三課程の教頭及びゆうあい中教頭と会議を設定し、各課程の情報の共有化を図ることで、各課程の教育課程が円滑に実施した。状況次第では、三課程の主任主事合同の会議も実施して、行事の調整を図ることができた。
		学年及び関係する分掌部が連携して具体的な取組が進められているか。	新入生への年間を通した適応指導の充実。1年生の転学・転籍・退学者数割合10%以内。	・生徒理解研修の充実。 ・学年や各分掌部が問題行動のある生徒や不登校生徒に対し、担任を中心に組織で対応する。 ・定期的に合同朝礼や合同終礼を行うことで、情報の共有化を図る。	B	1年生は入学当初、授業への取組等で課題があり、臨時で職員会議・チーム会議を実施した。生徒へ寄り添う指導を心掛け対応した。個別指導を繰り返すことで、授業への不安を取り除くことができた。具体的な目標の構築にも役立つことができた。 1年生の転学等の割合は、10.7%（1月末）である。
	業務改善 働き方改革の推進  業務改善 働き方改革の推進	勤務時間を意識して業務に携わっているか。 仕事の優先度、時間配分を考慮して業務に従事しているか。 効果的な会議の開催のために、資料作成や運営の工夫に努めているか。 教育課題の解決に組織的に取組んでいるか。	全職員の1か月の在校等時間の総時間から条例等で定められた勤務時間の総時間を減じた時間が45時間を超えない。 全職員の1年間の在校等時間の総時間から条例等で定められた勤務時間の総時間を減じた時間が、360時間	・職員は勤務時間に仕事を終わらせることを意識して業務を行う。 ・重要性や緊急性を考慮の上計画的に業務に当たる。 ・会議の開催を必要最小限にして、設定時間内で最良の結論を導く。 ・教育課題の解決には、全教職員が支援・サポ	B	通常の業務については、職員の意識改革が進み、仕事の優先順位や時間配分等を考慮して業務を効率よく進めることができた。しかし、時間外の割合を多く占める生徒指導や保護者対応は依然として課題を残す状況で、主任・主事や担任等一部の職員が年間360時間を超過することになった

			を超えない。	一トを行い、組織として対応する。		
学力向上	主体的・対話的で深い学びの授業の実践	主体的・対話的で深い学びの授業の実践が行われているか。	主体的・対話的で深い学びの授業ができるように教員の資質向上に努める。	ICTを効果的に活用したり、研究授業等を行ったり、考査の評価問題の工夫を積極的に促す。	C	公開授業週間と並行して課題を決め、互いの授業を見学する週間を設けた。考査に関しては促しが足りなかった。
	本校のスクールポリシーがより体现できるような教育課程の編成	本校のスクールポリシーがより体现できるような教育課程の編成を行ったか。	進学、就職、なりたい自分、興味関心など、単位制の長所を活かした幅広いニーズに対応できる教育課程の編成を行う。	教育課程検討委員会を定期的に関き、全教科で教育課程の編成を行う。	B	定期的に開催して、教育課程を幅広いニーズにあわせたものとなるよう編成を現在進行で行っている。
キャリア教育(進路指導)	キャリア教育の推進	社会経済の変化を踏まえ、社会的・職業的自立に向けた能力・態度が育成されているか。	進路講話・職場見学・進路ガイダンス・ボランティア活動を通して具体的イメージ(職業観)を持った生徒の割合を80%以上とする。	・外部機関が主催する事業や地域・保護者及び産官学との連携を図り、校内の取組を連動させて実施する。 ・キャリアパスポート記入を通してPDCAサイクルの確立を図る。	B	3年生は就職ガイダンスに参加し、応募や内定につなげることができた。進学希望者はオープンキャンパスや看護体験に参加して進学後の具体的なイメージを持ち、年内に全員が合格できた。
			校内外の行事や・インターンシップを通して働くことの意味や意義を考え、将来の進路目標を定めた生徒の割合を80%以上とする。	職業講話等の事前指導、事業所との事前の打合せや電話のやりとり、礼状の送付等を行う、活動の中で学びを得るようにする。	B	校外行事やインターンシップは予定通り実施できた。3年生は、昨年度のインターンシップから就職につなげた生徒がいた。行事は学年と連携してあまり行えなかった。次年度は早期計画や流れを明確にしたい。進路目標を定めている生徒は76.2%(昨年度66.3%)となった。
			働くことの意味を理解するとともに自身の将来像を現実的にイメージし、行動に移す生徒の割合を80%以上とする。	進路・就職ガイダンスに積極的に参加する。望ましい職業観の形成を図り、進路実現につながる積極的かつ具体的な学習に取り組ませる。	B	職業体験や職種のちがいが、スーツ講座など、学年に応じた体験ができた。進路説明会などを通し、働く意義を考える機会があった。進路に関して80%以上の生徒が取り組めた。
	進路目標の達成	個に応じた進路指導の推進が進路目標の達成につながっているか。	進路希望調査・適性検査などを通して進路目標を設定した生徒の割合を60%以上とする。	・二者面談・三者面談・進路部面談等を計画的に実施し各種調査結果等を活用して生徒の自己理解に生かす。 ・キャリアパスポート記入を通して自らの活動を振り返る習慣	B	キャリアサポーター面談や進路活動後のアンケート入力を通して振り返りを行うことができたが、目標設定までには至っていない。キャリアパスポートの記入を6回行い生徒が振り返りを行う機会を作ることができた。

		基礎的な学力の向上を図るとともに、進路情報の提供と進路別学習機会の充実に努め、生徒の進路選択の幅を広げられているか。	学校評価生徒アンケートで「学校が進学や就職に関する情報や資料を提供してくれている」と回答した生徒の割合を80%以上とする。	を付けさせる。 ・「高校生のための学びの基礎診断」を活用し、個に応じた学習指導や進路指導を行う。 ・学びなおし教材を1年生の授業で活用する。 ・ICTを活用した情報収集や学習、情報の受発信ができるようにする。 ・授業改善を図るための職員研修を実施する。	B	放課後学習会の実施、個に応じた添削指導、面接指導などを定期的な指導に繋げる計画ができた。Chromebookを活用した進路希望調査、3年生の志望理由書提出など行うことができた。求人閲覧・検索ができる「Handy進路室」や進学希望者への模擬試験対策などもできた。進学希望者対象にクラスルームを設けて、模擬試験前の課題配信等を行った。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	生徒が社会に適応できる生活をしているか。	遅刻、欠席、整容面での指導件数を減少させる。	・当たり前の行動に対する意識を向上させる。	C	・今年特に1年生の遅刻と整容面での指導が上手くおこなえなかった。
	自校愛の向上に向けての意識つける	規範意識の高揚、友愛・連帯の精神を養おうとしているか。	生徒総会を年間1回開催する。委員会活動を毎月開催する。	・生徒総会を実施し生徒の自主性を伸ばす。 ・委員会活動を実施することで委員会活動の活発化と自発的行動欲を向上させる。	B	・学校内行事等での生徒会の活動が、年々機能しているようである。 ・かぎられた委員会だけではなくすべての委員会が先導できる活動が今後の課題である。
	相手を尊重し、互いに協力する態度や心の育成	お互いを尊重し、協調しながら生活することができるか。	特別な指導の対象となる生徒の数を減少させる。	・行動を起こす前に気づかせる指導を行う。 ・SSWやSCと連携を図る。	C	・1年生での人間関係から来る問題が多かった。 ・課題としては早い段階からの心のセミナーなど、心の教育が必要だと感じた。
	命を考えた交通マナーの確立、交通法規の理解と交通マナーの向上	交通マナーの意識が向上しているか。交通事故・違反が減少したか。無施錠自転車減少したか。	自転車通学生のヘルメット着用義務化に向けて着用率を増やす。交通事故発生件数の減少と二重ロックの達成率を90%以上にする。	・交通安全教育講話の実施と交通委員会の活動の充実を図り、ヘルメット着用を呼びかけていく。 ・二重ロック及び無許可自転車指導を徹底する。	B	・大きな事故等は報告されていないが、学校から離れた場所での交通マナー等は課題がある。 ・相手だけではなく自分自身の将来に関係することを学ばせていきたい。
人権教育の推進	人権の重要課題の学習	・人権尊重の精神に立った学校づくりを推進しているか。 ・生徒と教職員が共に人権教育における重要課題を理解し、日頃の教育に実践しているか。 ・差別する側の差別意識からの解放という視点を持ち続けているか。	・LHRの時間を活用し、各学年で同和問題や水俣病事件などの重要な課題について学習を深める。 ・生徒向け人権教育講演会を開催し、人権教育における重要課題について理解を深め意識を高める。	・LHRの時間を活用し、重要課題について共通理解を得たうえで意見を述べ合い、各人および集団としての考えを深める。 ・年に1回、生徒向け人権教育講演会を開催する。	B	・水俣病問題及び「言わない・書かない・提出しない」取組については、指導案・教材ともにアップデートを行った。(熊本県人教「きずな」2020年改訂版を主に用いた。) ・講演会においては環境問題も絡めて講師と密に意見を交換し、生徒たちが他人事ではなく自分事として考えることが

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての教育活動の中で、「命を大切にすることを育む指導」の視点に立った教育実践がなされているか。</li> <li>・具体的かつ多様な指導を通して命を大切にすることを育む心や他者に共感する心を育んでいるか。</li> </ul>	める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が多様な学びの中で自他の特性を自覚して、主体的に学習に取り組める授業への工夫・改善を各教科担当者が行うよう推進する。</li> <li>・人権啓発作品作成の取組やその応募等により、共感する心を確認する。</li> </ul>	B	<p>できるように働きかけた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・啓発資料等のデータ化とその紹介という点では、推進を図ることができたと思われる。</li> <li>・1年生の人間関係づくりにおいては、啓発と意識変革の面で大きな課題を残した。</li> <li>・作品づくりとその呼びかけという部分では弱さを残したので、長期休暇中の課題等とのコラボレーションを今後図るようにする。</li> </ul>
	命を大切にすることを育む指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての教育活動の中で、「命を大切にすることを育む指導」の視点に立った教育実践がなされているか。</li> <li>・具体的かつ多様な指導を通して命を大切にすることを育む心や他者に共感する心を育んでいるか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての授業で、命を大切にすることを育む授業を取り入れることで、生徒が自他の特性を自覚し主体的に学習に取り組めるように授業の工夫や改善を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が多様な学びの中で自他の特性を自覚して、主体的に学習に取り組める授業への工夫・改善を各教科担当者が行うよう推進する。</li> <li>・人権啓発作品の作成に取り組むことにより、自他を大切にすることを育む。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・啓発資料等のデータ化とその紹介という点では、推進を図ることができた。と思われる。</li> <li>・人権教育講演会の内容は身内との関係から地球規模の環境問題までをカバーするものであり、この項目に充分応えることができたと考えられる。</li> <li>・作品づくりとその呼びかけという部分では弱さを残したので、長期休暇中の課題等とのコラボレーションを今後図るようにする。</li> </ul>
いじめの防止等	いじめ防止対策委員会を核とした職員間の連携	担任・学年団・関係者からの「いじめ」の情報を逃さないように初期対応ができてきているか。共有した情報をもとに学校内で連携が成されているか。	いじめ「0」を目指すのではなく、見逃し「0」を目指す。いじめ防止に係る初期対応を速やかに行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ問題への対応マニュアルの職員への周知を図り全職員で共通理解と防止に取り組む。</li> <li>・LHRでいじめに関する時間を設けていく。</li> <li>・心のアンケート実施後、または、いじめが疑われる事案を察知したら、速やかに担任は生徒への聞き取りを行う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめを「0」にすることはできなかったが、初期段階での職員間での情報共有はできていたようだ。</li> <li>・今後は各授業をはじめ、すべての学校現場の時間で、いじめや人権尊重の意味を含んだ生徒との対話を職員が心がけていきたい。</li> </ul>
心身の健康、性教育	望ましい生活習慣の定着化を図る。	自分の生活習慣に関心を持ち、行動変容への意欲を高められたか。	自分の生活習慣に関心を持ち、改善していこうとする生徒の割合を80%以上とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健日より作成（年6回）及び文化祭発表を実施し、望ましい生活習慣について啓発を行う。</li> </ul>	B	保健日よりを年6回発行し、文化祭発表ではスマートフォンの長時間使用による心身への影響について啓発を行い、望ましい生活習慣への変容を促した。各種講演会を企画し、97.4

						%の生徒が今後の生活に活かしていきたいと答えた。
	性に関する正しい意識の定着や向上	生徒の実態に沿った集団指導の実施や必要に応じて個別指導を実施でき、性に関する興味関心を高められたか。	性教育講演会や性教育推進週間を実施し、内容の理解ができた生徒が80%以上とする。	・性教育推進週間及び性教育講演会を実施する。 ・健康観察の実施の結果、個別指導が必要な生徒への対応を行う。	B	性教育講演会を実施し、90%の生徒が思春期のこころと性について理解が深まったと答えた。性教育推進週間では、朝読書で生徒の実態に沿った記事を読ませた。性に関する相談は適宜個別に指導し継続した対応を行った。
地域連携(コミュニティスクールなど)	熊本地震を教訓として、災害時の地域との連携体制の構築や防災教育の充実。	学校運営協議会を通して、関係機関と連携しながら、防災対策について整備を進めるとともに、防災教育の充実が図られているか。	1年間でスモール訓練を3回、避難訓練を1回実施する。熊本シェイクアウト訓練を1回実施する。3課程防災係が協力して「ぼうさい通信」を毎月発行する。	・学校運営協議会を開催して各委員よりご意見を伺い、地域防災や防災教育についての取組を充実させる。 ・避難訓練の実施やぼうさい通信の発行により、生徒・職員の防災意識を高める。	A	各取り組みについては、年間計画通りに実施できた。スモール訓練・三課程合同避難訓練についても、防災担当者からその都度、生徒の心を育む講話を行った。また、学校運営協議会の各委員からいただいた情報を地域防災、学校の防災教育に活用できるよう取り組んだ。
	開かれた学校作り	広報活動を効果的に実施しているか。	中学校への情報発信を充実させる。各家庭に学校の教育活動の理解を図る。ホームページを速やかに更新する。災害対応、重要な連絡等を早く、確実に伝える。	・体験入学や中学校での高校説明会、中学校訪問を充実する。 ・湧水(学年広報誌)を3ヶ月に一回発行する。 ・学校HPを速やかに更新する。 ・情報発信において「すぐる」を活用する。	A	学年広報通信「湧水」は、計画通りに発行できた。学校行事や各部活動等について随時更新して学校の活動を紹介できた。また、緊急連絡及び育友会からの連絡、奨学金・進路関係の案内をすぐるを活用しておこなった。
		地域社会に、学校をPRしているか。地域に貢献しようとする生徒の態度が育まれているか。	ボランティア活動への生徒の積極的な参加を目指す。	・校内や地域のボランティア活動に関する情報提供を行い、生徒の意欲的な参加を促す。	A	ボランティア活動については、高い意識を持って積極的に地道に取り組み、自主性を育んでいる。

#### 4 学校関係者評価

(1) 本校の学校運営及び教育活動の取組とその成果について、保護者、生徒へも高い評価をいただいていることに賛同をいただいた。

(2) いじめ問題の各課程の対応について、以前と比べて現在は直接的な対人問題より、SNSを通じた誹謗中傷が多く、加害者から被害者へ変わることもあり、複雑な問題となっている。各課程で共通したことは、できるだけ早期発見し、先生方の丁寧な対応が大切であること。関係機関との連携も踏まえた学校組織としての取組や対応の充実について言及された。

(3) 高校を卒業して社会に出ると、いろいろな人々とコミュニケーションをとって、良好

な人間関係づくりが求められる。高校生時に、人間関係のスキルを身につけることが大切である。本校は3年生時の進路活動を準備として、外部講師を招いて面接指導を行っていることを評価いただき、インターンシップ等の外部への活動を推奨された。また、部活動における人間関係作りを積極的に勧められた。

(4) ホームページ積極的に更新し、閲覧数を増やすことで多くの人に学校のアピールを行うことの大切さの助言を受けた。

(5) 地域を代表される繁栄会の委員の方から、学校の活躍の場を提供する意味で、祭りへの太鼓部の参加、ボランティア部の準備設営など協力を求めている。今後とも、継続して協力して、学校と地域の活性化につなげていきたいという意見をいただいた。

## 5 総合評価

(1) 学校評価アンケートの結果からも、本校の学校運営及び教育活動の取組とその成果について、全体的に保護者、生徒へも高い評価をいただいていることがわかる。先生方の授業について、ICTを効果的に使ってわかりやすい授業に取り組んでいることに評価があるようである。公開授業だけでなく、先生方の情報交換も積極的に行ったことも良い方向に進んでいるようである。

(2) 具体的な目標の中で、新入生への年間を通した適応指導の充実とある。新入生の中には、授業への取組や学校生活における生徒指導において問題を抱えている生徒がいる。学年部と生徒指導部が連携して会議を重ねて対応したり臨時で職員会議を実施し、全職員で協議したりして、生徒へ丁寧な指導を心掛けた。授業やカリキュラム取得について、個別指導を繰り返す事で、授業への不安を取り除くことができた。

(3) キャリア教育の推進について、1年生はグランメッセ熊本で開催された進路ガイダンスに参加し、具体的な進路目標を意識することができた。2年生はインターンシップ実習を通じて勤労観を養い、進路目標の構築につなげることができた。3年生は、進学希望者が例年より多く、オープンキャンパスや看護体験実習を行い、進学の準備を積極的に行って進路決定に向けて頑張った。

(4) いじめの防止について、いじめ防止対策委員会を核として、職員間の連携に取り組むことができた。学年団からの情報から、聞き取り、職員間の情報共有、保護者への説明等を丁寧に取り組んだ。

(5) 生徒や保護者のニーズに合わせた教育活動のあり方について社会や環境の変化に応じた学校運営が求められる。また、部活動の活性化や学び直しの視点など学校の魅力化発信にも引き続き努めていく必要がある。

(6) ボランティア活動においては、今年度も多くの活動実績を残し、地域の祭りの準備設営、湧心祭における「服のチカラプロジェクト」、「県立高校学びの祭典」でのスタンプラリー補助など、今年度も多くの活動実績を残した。

## 6 次年度への課題・改善方策

(1) 主体的・対話的で深い学びの授業の実践のために、ICTを効果的に活用し、生徒一人一人に応じた指導・支援を実践し、学力の基礎・基本を定着させる。探究的な学びを教科・科目で連携を取りながら行っていくために、各教科で協議する体制に加え、他教科との連携を深めて協議する体制づくりに努める、公開授業週間を強化して教科横断的な学びの充実を図る。

(2) 単位制の授業を行い、個に応じた指導、生徒が主体的に学び、目標を持つ事で楽しく充実した学校生活を送り、基礎的・基本的な力の習熟を図るため、1年時はほぼ必修科目であるが、入学後にカリキュラムガイダンスとカリキュラム説明会を実施し、生徒自身が2年から3年時のカリキュラムを選択して、各自の時間割を作成する。個別指導など丁寧な指導を行い、生徒一人一人に応じた丁寧な指導でカリキュラムを作成し、生徒が主体的に学び、目標を持つ事で充実した学校生活を送ることを目指す。

(3) キャリア教育の推進ため、今年度実施した各学年の行事を踏襲し、生徒が社会的・職業的自立に向けた能力・態度を育成する。また、キャリアパスポート等を活用し、きめ細かな系統的な進路指導により、生徒が自己の特性を知り、将来に対して目的意識を持って、自

己実現を図る。

(4) 基本的な生活習慣の確立のため、社会規範を遵守する態度を育み、時間厳守等の基本的な生活習慣の確立に向けた生活指導を推進する。

(5) コミュニティスクールを推進し、学校運営に地域の声を生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていく。近隣学校との連携を図るとともに地域防災の中核を担い、災害に備える訓練と災害発生時の対応について地域住民に貢献する。

(6) 教職員の働き方改革の推進。学校運営を支える教職員の働き方改革の取組は引き続き重要な課題である。学校独自の業務については、合理化や平準化を進めることで軽減が進んでいる。教職員の心身が健康な状態で生徒、保護者に接する時間を十分に確保するためにさらなる業務の見直しや、保護者、同窓会、地域からの教育活動に対する支援体制を活用し、チーム学校としての機能強化を推進していく。